Ⅷ　飼料作物・牧草

１．飼料用とうもろこし

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	ダイアジノン粒剤５	散布	収穫 60 日前まで	2 回以内	

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	クルーザーＦＳ３０	塗沫処理	は種前	1 回	

・忌避剤（参考農薬）

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
キヒゲンＲ－２フロアブル	塗沫処理	は種前	1 回（ﾁｳﾗﾑ 2 回以内）	

注1)　使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
注2)　薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

２．アルファルファ

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	スミチオン乳剤	散布	収穫 14 日前まで	2 回以内	まめ科牧草

注1)　使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
注2)　薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
注3)　農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

作　物　名	病害虫名	防除時期	防　除　方　法	注　意　事　項
飼料用とうもろこし	すすぎ紋病 ごま葉枯病 根腐病	全　期	1. 抵抗性品種を用いる。 2. 連作を避ける。 3. 有機質及び窒素とカリを増施する。 4. 深耕を心がける。 5. 適期に収穫する。 6. 排水を良くする。	1. 早期に肥切れすると発病が多い。 2. すす紋病は夏期に低温多湿となると発生しやすい。 3. ごま葉枯病は高温多湿で発生が多い。 4. 根腐病は刈り遅れると発生しやすい。
	すじ萎縮病	生育初期	1. 抵抗性品種を用いる。 2. 多発地帯では、は種をやや遅らせる。	1. ヒメトビウンカの飛来最盛期が幼苗期と一致しないは種時期とする。
	カラス・ハト（は種～発芽時の鳥害忌避）	は種前	［参考農薬］ 1. キヒゲンR−２フロアブルの原液 20mℓ を種子１kg に塗沫処理して、は種する。	1. 塗沫処理後の種子は風乾後は種する。 2. 粘度が高いので良く振ってから使用する。 3. キヒゲンR－２は、水産動物に対して影響が強いので注意する。
	ハリガネムシ（コメツキムシ類幼虫）	は種前	［参考農薬］ 1. クルーザーＦＳ３０を種子１kg 当り原液６mℓ 塗沫処理して、は種する。	1. 塗布処理後の種子は風乾後は種する。
	タマナヤガ	全　期	1. 周囲の雑草を防除する。 2. カリ肥料を十分施用する。	
		は種後１カ月以内	1. ダイアジノン粒剤５を 10a 当り６kg 散布する。	1. 散布後 60 日間は収穫給与しない。
ソルガム	すすぎ紋病 紫斑点病 紋枯病	全　期	1. 抵抗性品種を用いる。 2. 密植、刈遅れを避ける。 3. 連作をさける。	1. 特にスーダングラスはすす紋病に弱いので注意する。
牧　草	すじ葉枯病 葉腐病 菌核病 白絹病	全　期	1. 抵抗性の強い草種を用いる。 2. 圃場の排水を良くする。 3. 過繁茂、刈遅れを避ける。 4. 激発時は早期に刈り取る。	1. 肥切れの時に発生しやすい。 2. 過繁茂、軟弱徒長で発生が多い。
アルファルファ	アルファルファタコゾウムシ	１番草生育期	1. スミチオン乳剤 1,000 倍液を 10a あたり 150ℓ散布する。	1. 中齢幼虫の密度が高くなる４月下旬から５月上旬に散布する。

総　括　注　意

飼料作物や牧草は茎葉をそのまま、大量に利用するため、できるだけ薬剤防除を避け、耕種的な対策を用いる。